

## 1 はじめに

アントレプレナーシップ教育(起業家精神教育)は、「この問題を解決したい」「もっと良くするには、どうすればよいだろうか」というような思いを持ち、主体的に問題解決のために必要な情報を集めたり、計画を立てたり、交渉したり、失敗から学んだりを繰り返していく過程から、起業家精神や起業家的能力を身につけていくものである。

## 2 主題設定の理由

学習指導要領では「生きる力」を育むための教育が求められている。そこで、その資質・能力を

- ①生徒の主体性や創造性、探究心等を養い、困難に対してチャレンジ精神を持って課題解決に向けて行動に移すことができる力。
- ②自らの力で未来を切り拓き、より良い社会づくりに積極的に参画しながらたくましく生きていくための力。
- ③自分自身を見つめ直し、自己のキャリア形成に繋げる力。

これら3つの力が、アントレプレナーシップ教育を通して、育まれるカリキュラムを構築することを目的として取り組んだ。

以上のような理由から

研究テーマを

「地域課題に根ざしたアントレプレナーシップ教育の推進」

とし、中学生が地域参画と連携・協働を通して、探究活動における深い学びの実現とふるさとを愛する心を育む教育を目指して実践していった。

## 3 研究の概要

### (1) 推進体制・組織の確立

アントレプレナーシップ教育推進委員会を立ち上げ、アントレプレナーシップ教育を、1学年 15 時間、2学年 10 時間、3学年 4 時間と全学年の総合的

な学習の時間に位置付けた。そして、地元の起業家サポーターや市役所の方々の協力を仰ぎながら進めていった。

### (2) 全学年共通の取組

これからの時代に求められる資質・能力や未来社会の働き方等について、起業家サポーターから「アントレキックオフ」と題した講演を全学年にしていた。それを受けて、各学年のアントレプレナーシップ教育をスタートさせた。

### (3) 1年生の年間計画と取組

活動の内容：自分たちが住む町をより良くするため、地域調べ学習やインタビューにより春日町の魅力や課題を見つけ、地域の魅力や課題についてグループで壁新聞にまとめ、発表する。

1年生 年間計画

	内容
4月	
5月	
6月	事前アンケート
7月	1年アントレキックオフ ・講師の話【起業家サポーター】 ○10年～20年後の社会について ○これからの時代に求められる資質・能力について ・今後の予定について【教師】 ○事業所訪問や文化祭の発表など
8月	夏休み中に個々で課題に取り組む ・春日町の魅力と課題について調べる。 (インターネット・本・家族や地域の大人に聞くなど)
9月	
10月	・講師の話【市役所職員】 ・丹波市の魅力あるポイントと行政の施策について知る 文化祭に向けての取り組み ・訪問する事業所の確定と事前指導 ・班ごとに事業所訪問 ・ステージ発表・演劇・壁新聞による発表準備 ・学年でグループ発表
11月	文化祭発表
12月	※冬休みの宿題(各自で未来社会に関して情報を収集)
1月	未来を知るベース作り(朝や終わりのSHR等を活用) 10～20年後の未来社会について収集した情報をもとに意見交流
2月	
3月	

・[文化祭の取組]

調べ学習で担当する事業所（18 事業所）を決定するとともに、役割を分担した。また、訪問に向けて計画を立てた。

・[事業所等訪問についての事前指導]

事業所訪問にむけて、アポイントの取り方、インタビューの方法、メモの取り方等を学んだ。また、各事業所での質問事項を考えた。質問の具体例としては、「なぜ春日町で起業されたのか?」「将来の自分たちに期待されることは?」などがあつた。

・[講演会（市役所から講師招聘）]

未来の春日町や自分の将来について考えることをねらいとして、丹波市の魅力あるポイントを紹介して頂いた。日頃、生活している春日町であるが、生徒が知らないこともたく



発表に向けての準備

さんあつた。また、丹波市の課題として行政がどのようなことを考え、課題に対してどのような取組をされているか知る良い機会となつた。

・[事業所等訪問]

2 日間に分けて 18 事業所をグループごとに訪問した。事前に考えていた質問をおこない、事業所の方に丁寧に回答して頂いた。生徒もしっかりメモを取りながら話を聞くことができていた。

・[壁新聞発表交流会]

文化祭前日、学年で壁新聞の発表会を行い、調べた事業所の特徴や感想など交流した。



壁新聞発表交流会

・[文化祭での発表]

体育館にて、寸劇やパワーポイントを利用してステージ発表を行った。また、校舎南内にて、壁新聞 18 作品の展示を行った。

～1 年生感想から～

他の班の壁新聞を見て、上手に作っていると思いました。春日町にも今まで知らなかったいろいろな場所があることを知りました。また、調べたパナソニックでは東京ドームの電灯を作っていることを知り、すごいと思いました。

(4) 2 年生の年間計画と取組

活動の内容：6 つの地域課題(①環境 ②伝統・文化 ③観光 ④商工業 ⑤農業 ⑥福祉・健康)からテーマを設定し、未来志向で地域課題の解決について考えていく。

2 年生 年間計画

	内容
4月	
5月	
6月	トライやる・ウィーク ・地域課題や事業所の取組についてインタビュー 事前アンケート
7月	2年アントレキックオフ ・講師の話【起業家サポーター】 ○10～20 年後の未来社会について ○これからの時代に求められる資質・能力について ・今後の予定について【教師】 課題の設定、グループ編成
7月	グループ編成の発表、グループワーク、メンタリング ・講師【起業家サポーター】 ・夏休み中のテーマの設定、役割分担、夏休みの活動計画 ・夏休み中の取組に向けてメンタリング
8月	夏休み中の取組+メンタリング ・グループ活動のための登校日を設定
9,10月	グループで活動
11月	中間発表会の取り組み グループ間で発表、全体へのメンタリング【起業家サポーター】
12,1, 2月	グループで活動
3月	メンタリング【起業家サポーター】 ・今後の取組に向けてメンタリング（1 班につき 15 分）

・[アントレグループワーク]

ブレインストーミングや KJ 法を用い、グループごとに地域の資源や課題からテーマを考え、今後の実践計画を立てた。



アントレグループワーク

・[夏休みメンタリング]



夏休みメンタリング

夏休みを中心にチームごとに取り組んだことを報告しながらメンター（講師）からアドバイスをもらい、次の計画を考えた。

メンタリング：心理的なサポート、考え方の整理、ロールモデルの提示などの広い関わりをする。

・[アントレ中間発表]

各グループの進捗状況を発表し、感想を交流しながら自分たちの活動を振り返るとともに、今後の計画を立てた。

・[アントレ発表会]

各グループ1年間活動してきた成果と課題、自分が気づいたことや成長したことを振り返った。そして、その中で4グループの実践報告と5名の個人感想の発表を2年生や事業所の方も参加する中で行った。講師の方から「みなさん、本当によく頑張りました。」「この経験は必ずこれからの人生に生きてきます。」など励ましの言葉を頂いた。



アントレ発表会

観光1班の取組(発表会内容から)

テーマ「地元のお菓子屋さんをもっと有名にしたい」

私たちは何を活性化させれば観光の発展につながるか話し合った結果、「地元のお菓子屋さんにお客さんを呼び、観光の発展につなげよう!」という目標を立てました。



作成したチラシ

そこで経営者にインタビューに行きました。「どうすれば観光が発展するのか」「丹波のいいところ」など参考になる話をたくさんしていただきました。

その後まず、チラシ配りを考えました。丹波市だけではなく県外の人に知ってもらうためチラシを作り、夏休みに「道の駅」で配る計画です。「このチラシをお店に持って行くとドーナツがもらえる」というアイデアを提案し特典付きにして配りました。

実際、100組の人に配り、その結果16組の人がお店に足を運んでくれました。また活動中に嬉しい事もありました。お店に行ってきた人に「行ってきましたよ」と言ってもらえたことです。それを聞いてやってよかったと思いました。

反省としては、平日に配ったため人があまりいなか

ったことです。県外の人に配布するなら土日の方が良かったし、もっといい結果が得られていたかもしれません。

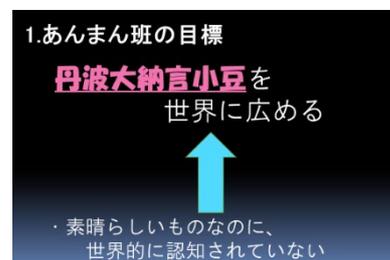
このアントレプレナーシップ教育を通して学んだことは、地域との交流の大切さやグループ活動を通しての仲間の重要性、先生の助けを借りず自分たちだけの活動の難しさ、どんな時でも礼儀を忘れてはいけないということです。アントレで学んだことはこれからの生活や高校でも生かせると思います。そして何よりとても楽しかったです。

商工業3班の取組(発表会内容から)

テーマ「大納言小豆を使ったアンパン」

私たちの活動目標は「丹波大納言小豆を世界に広める」ことです。

まず、私たちは大納言小豆を育てられている方にインタビューを行いました。そこで、中学生にやってもらいたいことを聞くと、「丹波大



プレゼン画面

納言小豆の活性化のために、都会に行き知識を得て春日に帰ってきてほしい」という答えが返ってきました。そして、「大納言小豆が全国的に売れるように、ポスターや良い商品を作ってほしい」と言われ、帰りに小豆を頂きました。

そこで、その小豆の使い道として「あんまん」を作ってみようということになりました。試食してみたところ、あまりのおいしさに感動し販売を決意しました。

そして、それを日曜マーケットに出店する計画を立てました。しかし、調べていくと出品するには、出店料 3000 円と営業許可や、食品の販売に必要な衛生責任者が必要でした。3000 円はみんなで払えそうでしたが、営業許可が取れず、また衛生責任者がいなかったため出店を断念しました。

この活動を通して身についたことは、出品するには営業許可などいろいろな手続きがあることを知りました。事前に下調べをして目標達成のために準備をすることが大切だと実感しました。

(5) 3年生の年間計画と取組

活動内容：未来志向で地域課題の解決について考えるとともに、『たんばみらい学』での発表へつなぐ。

自分の好きな事や興味がある仕事と地域資源を掛け合わせることで地域課題に目を向け、その課題を解決する方法を考える。また、自分の考えや思いを他者に伝えるとともに、起業家や地域で働く大人からアドバイスを聞いて自分の考えを深める。

### 3年生 年間計画

	内容
4・5月	
6月	事前アンケート
7月	3年アントレキックオフ ・講師の話【起業家サポーター】 ○10～20年後の未来社会について ○最先端のテクノロジーについて ○未来社会の働き方について ○自分の好きなことを仕事にいくためには ○これからの時代に求められる資質・能力について ・今後の予定について【教師】 第1回「たんばみらい学」(1h)【市役所職員】 ・丹波市の資源や地域課題について知る ・個人テーマの設定、夏休みの活動計画
8月	夏休み中の取組 ・地域資源や課題をさらに調べ、自分にできることを考える
9月	
11月	・「たんばみらい学」の意見交流にむけ、「自分なら地域にどう貢献できるか」「自分は何ができるか」等について考えをまとめる
12月	第2回「たんばみらい学」(1h)【地域の起業家】 ・地域資源の活用や課題解決において、自分にできることを発表し、地域の起業家や働く大人と意見交換

#### ・[アントレレポート]

地域資源や課題をネットや地域の人に聞きながら調べ、将来自分にできることを考えレポートにまとめた。

#### ・[たんばみらい学①]

丹波市の資源や地域課題について話を聞き、夏休みのレポートを参考にしながら意見交流に向け、「地域にどのように貢献できるか」「自分は何ができるのか」について考えをまとめた。



たんばみらい学の様子

#### ・[たんばみらい学②]

丹波市商工会議所から10名の講師を招き、自分の将来の夢や思いを発表し、地域の起業家や働く人と意見交流をすることができた。

～3年生感想から～

僕は、将来、薬品会社に勤めて新薬をつくりたいと考えています。僕はこの町の高齢者問題に関心があり

ます。お年寄りが元気に生活できるお手伝いをしたいと思います。また若い人たちもこの町に住み続けたいと思えるようこの田舎でも充実した医療が受けられるシステムができたらと思いました。

### 4 研究の成果と課題

#### 成果

・生徒の積極的な活動の様子や発表内容から、教師の想像以上の成果を上げることができた。生徒たちは、学校行事や生徒会活動で新しいアイデアを考えたり、新しいことに挑戦したりするなど自主性を発揮するようになってきた。

#### 課題

・活動の進度がグループによって異なり、十分な活動ができていないグループもあった。教師側の達成目標を設定しておく必要がある。

・生徒が、学校外で自主的に活動するため、企業から問い合わせの電話があるなど、生徒の活動を把握できていないことがあった。今後、生徒の安全面への対応と、学校の取組を企業や地域へ広報していく必要があると考えられる。

・メンタリング(面談)などにおいて生徒に適切なアドバイスをするために、教師側が目的を明確にし、アントレプレナーシップ教育の知識と指導力を身につける必要がある。また、活動に対する動機づけや日頃から主体性を育む姿勢が必要である。

---

たんばみらい学: 地域資源の活用や課題解決において、地域の起業家や働く大人と意見交換をする場